

## 「図書館とともだち・鎌倉」における活動の実態調査

及川乃映

近年、公共図書館の運営に関する報道が増加し、図書館業務のサポートや運営体制への反対運動などを行う「図書館友の会」の活動も注目を集めるようになってきた。しかし、活動の一部が報道されることが多く、活動の全容や所属会員のバックグラウンドに関する研究は少ないという現状にある。

本研究では、神奈川県鎌倉市で活動を行っている「図書館とともだち・鎌倉」の活動実態を明らかにすることを目的とする。

本研究は、神奈川県鎌倉市で活動を行っている図書館友の会「図書館とともだち・鎌倉」及びその会員を研究対象とする。文献調査、フィールドワーク(参与観察)を通して、「図書館とともだち・鎌倉」の活動内容や活動背景を把握し、活動の実態を把握した。次に「図書館とともだち・鎌倉」会員を対象にインタビュー調査を行い、活発に市民活動を行う市民団体に必要な要素について組織論の観点から考察を行った。

調査の結果、「図書館とともだち・鎌倉」は、通常ボランティアが行うことが多い図書館での業務支援を行うのではなく、図書館の魅力を広く伝えるためのイベント開催や、図書館の運営に関する勉強会、市や教育委員会に対する提言、必要に応じて図書館の運営に関する市の方針への反対運動、会報の発行等、多岐に渡る活動を実施していることが判明した。活動当初からこれら全ての活動を行っていたのではなく、市図書館に関する様々な問題に対応していった結果、徐々に活動が広がっていったことが解明された。

参与観察では、会員の強い熱意や行動の速さを感じる場面が多々見られた。これは市民の自発的な参加で成り立つ市民団体特有の特徴であると考察できる。また図書館とは違う分野で活動を行う市民団体とも繋がりがあり、分野を超えて、協力して鎌倉市を発展させていこうという姿勢も見られた。インタビュー調査では、リーダーの存在の大きさと、会員の人間関係と会の運営状況の間に密接な関係性があることが判明すると同時に、会が抱える課題も明らかになった。

本研究では、20年に渡って発行されてきた会報の分析文献調査から「図書館とともだち・鎌倉」における活動実態の全容が明らかとなった。また、参与観察とインタビュー調査から、活発に活動を行う市民団体に必要な要素を組織論の立場から明らかにすることができた。

本研究は鎌倉市で活動を行う「図書館とともだち・鎌倉」に対して調査を行ったため、他の図書館友の会の活動実態とは差異がある可能性がある。また活発に活動を行う市民団体の中には他分野で活躍する団体や、「図書館とともだち・鎌倉」とは違った方法で図書館を支援する団体もあると考えられる。今後は、図書館友の会の実態をより詳細に把握するため、研究対象を全国に拡大したより詳細な分析が必要である。

(指導教員 吉田右子)